

分類 番号	A12	取組 名称	赤れんが倉庫群と周辺地域をつなぐエコミュージアム構想の研究
研究代表者：	公共政策学部	職・氏名：	講師・杉岡 秀紀
研究担当者：	<p>京都府立大学：公共政策学部（杉岡秀紀）</p> <p>研究協力者：青山公三（京都府立大学名誉教授）、三橋俊雄（同）、森本隆氏（株式会社DIYSTYLE）、土本章裕氏（一級建築士事務所ドモトワークス）、森下直哉氏（舞鶴市役所）</p> <p>オブザーバー：下野文歌氏（舞鶴市文化事業団）、瀬野祐太氏（（特活）MCA）、杉岡ゼミ生</p>		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	舞鶴市		
【研究活動の要約】	<p>本研究は、平成25年に包括協定を締結した舞鶴市と本学の連携の一貫として取組まれるに至ったACTRの継続研究である。</p> <p>3年目にあたる平成27年度は、昨年度提案した「舞鶴エコミュージアム構想」の実装のために、舞鶴全体、また舞鶴の外から見た視点を重視し、調査研究を進めた。月1の研究会については、舞鶴の中でも加佐地区で開催したり、南丹市で開催したり、京都府立大学で開催し、舞鶴以外の視点で議論できる工夫をした。調査については、ホフマン窯を視察し、東舞鶴以外の視点で赤れんがの現状について確認した。また、舞鶴の赤れんがの相対的価値を確かめるべく京都市の赤れんが調査も行った。加えて、他地域の先進事例（国内）も調査した。そして、実践面では、これまでの2年間の研究成果の還元も兼ね、京都府立大学の学園祭にて「舞鶴揚げ」や舞鶴地産地消赤れんが（QBB：Quick Built Brick）の販売を行ったり、京都府の文化ベンチャーコンペティションや日本地方（地域）政治学会に応募し、広く社会にその成果を問う機会も作った。</p>		
【具体的経過】	<p>（平成27年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月19日：第1回研究会（舞鶴） ・ 7月18日：第2回研究会（舞鶴） ・ 8月30日：第3回研究会（府大） ・ 9月27日：第4回研究会（舞鶴・加佐） <p style="padding-left: 40px;">※ 研究会終了後、ホフマン窯見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月17日：第5回研究会（舞鶴） ・ 12月12日：第6回研究会（府大） ・ 1月16日：第7回研究会（南丹市） ・ 2月11日：第8回研究会（舞鶴） ・ 3月14日：成果報告会 		

【研究活動の成果】

研究成果については、以下のとおり。

- ①舞鶴地産地消赤れんが（QBB：Quick Built Brick）については、「京都れんが」に改称し、より普遍化させることができた。また、2015年3月末に京都産業・エコエネルギー推進機構の「京都エコスタイル」に認定された。また、その販売装置として「赤れんがガチャ」が新たに開発された。
- ②赤れんがエコミュージアム構想については、京都市の赤れんが調査を進める中で、舞鶴の赤れんがの価値を相対的に検証するとともに、「舞鶴揚げ」という商品開発に構想が発展し、京都府立大学の学園祭（流木祭）で試験販売（約400本完売）したほか、成果報告会の際に舞鶴の市民にもお披露目（提供）した。
- ③本研究会の活動については、KNSin関西、京都文化ベンチャーコンペ（一次選考を通過）、日本地方政治学会・日本地域政治学会などでプレゼンすることで、広く周知・広報することができた。

【研究成果の還元】

研究成果の活用については、以下のとおり。

- ①QBBを活用した商材については、研究会メンバーのDIY STYLEの商材としてすでに製品化・販売されており、研究会終了後も自走する仕組みが出来ている。
- ②赤れんがエコミュージアム構想については、「舞鶴揚げ」のレシピを作成し、報告書に収録するとともに、広くホームページでも公開している（<http://brick.kyoto.jp/activity/activity.html>）。
- ③本研究会での成果は、京都府の商店街創生センターが支援する商店街創生支援プロジェクト事業（東舞鶴商店街）でも共有（還元）したところ。景観条例も含め、今後は現行の研究会メンバーでのネットワークも残しつつ、当該プロジェクトにおいて本研究会での提言の実現を模索する。

【お問い合わせ先】 公共政策学部 職名：講師 杉岡 秀紀

Tel: 075-703-5332 E-mail:sugioka@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）



舞鶴揚げ



赤れんがガチャ



日本地方（地域）政治学会での発表



ヒアリング調査の様子（福岡）